

田園自然再生活動コンクール 農林水産大臣賞受賞

農林水産省では、環境省等と連携し、「田園自然再生活動コンクール」を平成15年度から実施。平成21年度は、全国31道府県から71団体が応募。12月15日に農林水産大臣賞をはじめ各賞が発表されました。

1、趣旨

田園自然再生コンクールは、農村地域において、農業者、地域住民、NPO、法人などが協力して、農業生産との調和を図りながら取り組んでいる自然環境の保全・再生活動(田園自然再生活動)の中から優良団体が表彰されています。

2、受賞団体

〈農林水産大臣賞〉—総合的に優れた取組—

鞍掛山麓千枚田保存会(愛知県新城市)

棚田全体をビオトープとして、地域に生息するモリアオガエルなどの希少種をはじめとした豊かな自然環境の保全、再生活動に取り組み、農作業体験や自然観察会を通じて都市との交流や企業との連携を図り、棚田のすばらしさを多方面に発信している。

棚田保全活動を発展させ、自然環境を活かした都市・企業との連携交流を図るなど活動内容の幅・質が、総合的に優れている点が評価された。

〈農林水産省農村振興局長賞〉—農業・農村振興、地域づくりに向けた取組—

たかしま有機農法研究会(滋賀県高島市)

20代の若手農業者を中心に、生きものとの共生を目指しており、会員農家が「自慢の生きもの」を設定し無農薬、無化学肥料による「たかしまの生きもの田んぼ米」の栽培面積を増加させ、農村地域に普通に見られる生きものとともに多くの絶滅危惧種の生息環境を保全している。生きものとの共生した水稻栽培を通じた消費者との交流、生きものブランド米の取組等が優れている点が評価された。

〈環境省自然環境局長賞〉—自然生態系の保全・再生に向けた取組—

佐渡トキの田んぼを守会(新潟県佐渡市)

農業者が中心になって、27年ぶりに佐渡の大空に羽ばたいたトキの生息環境を復元するため、トキの主な餌場である水田での生態系の再生を目的に、冬水田んぼや魚道の設置、無農薬、減農薬栽培による生きものを育む栽培に大規模に取り組むほか、トキ米の提供による食育活動等に取り組んでいる。トキとの共生型農業の拡大を目指した調査や栽培技術の普及、トキブランドによる食育の取組が優れている点が評価された。

〈子ども生きもの賞〉—子供たちの環境教育への取組—

愛媛県立伊予農業高等学校 伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム(愛媛県伊予市)

〈パートナーシップ賞〉—多様な主体が連携した取組—

TAPPO 南魚沼やまどくらしの学校(新潟県南魚沼市)

〈オーライ!ニッポン賞〉—都市と農村の共生・対流によって実施している取組— 特定非営利活動法人 つくば環境フォーラム(茨城県つくば市)

〈朝日新聞社賞〉—活動内容が幅広く、社会的貢献度が高い取組—

特定非営利活動法人 大宣味つばきの会(沖縄県大宜味村)

3、表彰式

平成22年1月15日に開催される「田園自然再生セミナーin名古屋 for COP10 (会場:ウインクあいち「愛知県産業労働センター」)で行われます。

四谷の

千枚田だより



第77号

棒杭も雪を貰って量なり
元日は天に給いし銀世界

柳二



「いのちの共生を、
未来に」



【COP10 ロゴマーク】

田園自然再生セミナー In名古屋 for COP10 ～自然と共生する村づくり～

主催：農林水産省 (社) 農村環境整備センター
 10:00～14:20 ポスターセッション
 14:20 主催者挨拶
 14:30～15:20 講演：「農村・里山 COP10 の取組」
 講師：マリ クリスティーナ氏(COP10 広報アドバイザー)
 15:20～17:00 パネルディスカッション
 「農村の生物多様性保全に向けた今後の課題」
 コーディネータ：進土五十八氏(東京農業大学教授)
 パネリスト：マリ クリスティーナ氏 受賞団体実践者等
 17:00～18:00 「田園自然再生生活活動コンクール」表彰式
 会場 ウィンクあいち「愛知県産業労働センター」5F

連谷地区新年祝賀会

一月三日、市公民館連谷分館・コミュニティ主催の新年祝賀会が穂積市長、峰野県議会議員、森市議会議員を来賓に地元参加者四十人を交え地区活性、展望など一献を傾けながら盛大に行われた。
 (趣旨、来賓祝辞の詳細については「四谷の千枚田だより」号外とし発行要約のみとした)

来賓祝辞

『貴重な財産四谷の千枚田』

新城市市長 穂積亮次様

新年明けましておめでとうございます。サミットをきつかけに「四谷の千枚田」を舞台にいろいろな活動が広がってきましたし、それ以前から中心になってこられた皆さんが宮々と努力をされてこられた事が、今や、四谷の千枚田は新城の大きなシンボルとなりました。

その、歴史を振り返ると、最初は「千枚田」・「棚田」ということ自身があまり一般化されていない時期には本当にお荷物と思われていた訳ですが、棚田サミットを大きなきっかけとして全国的な運動になりました。従来の価値観からすれば生産性の悪い、効率の悪い田んぼですから打ち捨てられても不思議はない訳です。それが、二三十年内外にどうでしょうか、まるで大きく変わってきました。それだけ価値観というものが変わってきたと思います。そして、それを担う人々の気持ちもまた、変わってきたのではないかと思います。

連谷地区の皆さんの団結、連帯、絆がより一層広がっていただきますこと、そして、新城といえは四谷の千枚田、四谷の千枚田といえは新城。市民、皆さんが共有の財産だと心から思ってもらえるように我々も頑張りますし、皆様方も一層お力添えいただければと思います。
『評価された環境貢献』

愛知県議会議員 峰野 修様
 明けましておめでとうございます。



元旦の雪景色

四谷の千枚田に関しては愛知県も最近しっかり守っていただきたいという事で応援をさせていただいております。獣害対策でも「サル追い払い隊」、イノシシの駆除など、地域を守るという事で協力させていただいております。また、「あいち森と緑づくり事業」については保存会を柱に環境保全活動など、地域全体としてトータルな施策でいろいろ協力させていただいております。特に今年にはCOP10が開催されます。「四谷の千枚田」を守るとい一つのキーワードでこの地域の環境貢献という事を評価していただける機会だと思っておりますし、今までの地域を守るということでも頑張ってみえた皆様の活動が改めて全世界に発信されるぐらいの年になりますように心から祈念いたします。

『若い力の育成』

新城市議会公議員 森 孝様

新年明けましておめでとうございます。私はこれから四年間かけてこの地域を若い力でまとめる後継者の育成について全面的に引っ張って行きたいと考えております。今後とも一生懸命やって行きます。電話などを頂いて、まずは私に声をかけて頂だかなければ働く場所も見当たりませんので、どうか今まで以上に地元議員として私を使って頂きたいとお願いたします。

訃報

十二月二十五日逝去



田吾作代表 今泉良治氏 76才
 (稲作体験 みんなの奥三河にて)

霜厚し
 田螺も
 鳴くや良治忌
 02年、耕作放棄地の解消に田吾作を結成、山都共生の理念。有機、無農薬の米づくりを推奨。棚田に活き棚田を愛し、剛胆を貫く。まだ、まだ逝くのはもったいないお人だった。(合掌)

行 平成二十二年一月十五日
 鞍掛山麓千枚田保存会
 発 文 責 小山舜二